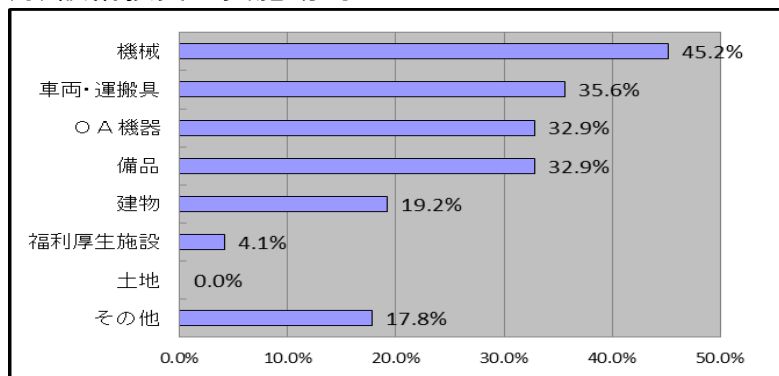
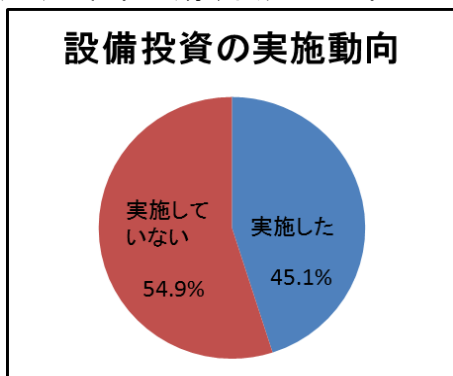


■付帯調査：設備投資動向調査結果（平成25年上期・下期）

企業の設備投資意欲は若干弱まる！ 過剰設備への警戒感か

- 今年上期（平成25年1～6月）について、設備投資を実施した企業は全業種では45.1%となった。
業種別にみると、製造業が最も高く51.7%、以下、小売・卸売業が48.6%、サービス業が48.4%、建設業が28.9%、と続いた。
- 今年上期（平成25年1～6月）において設備投資を実施した企業にその投資内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が45.2%と最も多く、以下「車両・運搬具」35.6%、「OA機器」32.9%、「備品」32.9%、「建物」19.2%と続いた。
- 一方、今年下期（平成25年7～12月）について、設備投資を計画している企業は全業種で42.0%と今年上期を幾分下回る割合で計画していることが分かった。
業種別にみると、小売・卸売業が最も高く50.0%、以下、サービス業が44.8%、製造業が43.9%、建設業が29.7%と続いた。
- 今年下期（平成25年7～12月）において設備投資を計画している企業にその投資内容（複数回答）を聞いたところ、全業種では「機械」が43.9%と最も多く、以下「備品」34.8%、「OA機器」31.8%、「車両・運搬具」30.3%、「建物」19.7%と続いた。
- 設備投資の実施動向について、単純比較では前回調査（平成24年7～12月）結果を、4.3ポイント下回った。また、前回調査では、設備投資計画（平成25年1～6月）が、51.0%であったのに対し、結果45.1%で、5.9ポイント低下した。
- 本所調査では、リーマン・ショック以前の水準を上回り、長引く景気低迷下で抑制していた設備の維持・更新投資に向かう動きが活発化したものの、急回復とはいえない不透明な景気動向により、下期の計画は縮小し、過剰設備への警戒心が解かれぬ結果となった。

（1）今年上期（平成25年1～6月）設備投資の実施動向



（2）今年下期（平成25年7～12月）設備投資の計画動向

